

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135 A-310	21-062	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Ear Abnormalities Among Children with Fetal Alcohol Spectrum Disorder: A Systematic Review and Meta-Analysis</p> <p>胎児期アルコール暴露と胎児性アルコールスペクトラム障害のある小児における聴覚障害と耳構造異常に関するシステマティックレビュー・メタアナリシス</p>		
執筆者		
Cheung MMY, Tsang TW, Watkins R, Birman C, Popova S, Elliott EJ.		
掲載誌		
J Pediatr. 2022 Mar;242:113-120.e16. doi: 10.1016/j.jpeds.2021.11.016.		
キーワード	PMID	
胎児性アルコールスペクトラム障害 聴覚障害 メタアナリシス	34780779	
要 旨		
<p>目的：胎児期のアルコール暴露は、出生児の先天奇形に限らず、生涯にわたるあらゆる健康状態に悪影響を及ぼす。胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD) については、聴覚障害との関連が指摘されている。そこで本研究では、胎児期アルコール暴露および FASD のある小児における、聴覚障害と耳構造異常の種類・有病率に関するシステマティックレビュー・メタアナリシスを行った。</p> <p>方法：PRISMA 声明に則りシステマティックレビューを行った。18 歳未満の小児における聴覚障害・耳構造異常と胎児期アルコール暴露および FASD に関する報告を対象とした。31 論文が選択基準を満たし、そのうち疾患頻度の記載のある 25 論文 (胎児期アルコール暴露のあった小児 843 人、FASD 児 1653 人を含む) をメタアナリシスの対象とし、各聴覚障害・耳構造異常の統合した有病率を算出した。</p> <p>結果：聴覚障害のうち、統合した有病率は、慢性滲出性中耳炎 88.5% (95%信頼区間[CI], 70.4-99.3%)、聴覚フィルタリング障害 80.1% (95% CI, 76.5-84.3%)、非特異的伝音難聴 68.0% (95% CI, 51.9-82.2%)の順に高かった。耳構造異常では、小耳症 42.9% (95% CI, 26.8-59.7%)、耳輪脚の形成異常 16.8% (95% CI, 8.1-27.7%)、耳の位置異常 12.3% (95% CI, 7.6-17.9%)の順に有病率が高かった。</p> <p>結論：胎児期アルコール暴露と FASD のある小児では、比較的高率かつ多様な聴覚障害と耳構造異常が認められた。FASD の評価には聴覚障害と耳構造異常の精査が重要であるとともに、胎児期のアルコール暴露の悪影響を周知する必要がある。</p>		